

第24回 こまつばしスポーツ大会

令和7年6月29日(日) 大江戸高等学校

出場チーム数 47チーム 川南小14(午前6/午後8)、扇橋小13(午前10/午後3)
毛利小 9(午前6/午後3)、東川小11(午前2/午後9)

今年もスポーツ大会(ポッチャ)が開催され、大江戸高等学校体育館を会場に、午前・午後の2部構成で多くの子どもたちが参加しました。チーム対抗戦を中心に、親子のふれあいや児童同士の仲間づくりにつながる行事として実施されました。当日の運営にあたり、各小学校(川南・扇橋・毛利・東川)およびPTA、そして多くの関係者の皆さまに多大なるご協力をいただきました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。参加した全てのチームの皆さん、本当にありがとうございました。

午前の部



Mニャン再来(毛利小) FANTA(毛利小)

キャンパーズ(扇橋小)、スーパーKI(扇橋小)

午後の部



ポッチャーズthird(東川小) STARS(扇橋小)

忍者(川南小)、Star(東川小)

わが町コラム③ 千田町会「近江屋庄兵衛と宇迦八幡宮」

わが町も、四ツ目通り沿いに多くのマンションが立ち並び、現在も建設中や準備中の物件も多く、東京メトロ8号線も決まり、駅が出来るとは、十年後には開発も進み、新たな住民も増え、千田の歴史と名の由来を知る人々も少なくなると、私の知る事をここに記したいと思います。

現在、千田とされている地域は、江戸時代中期頃までは海岸の干潟でした。享保八年(1723年)に近江屋庄兵衛(千田庄兵衛)と井籠屋万蔵が、時の幕府・八代將軍の徳川吉宗に新田開発を願い出て、土地を埋め立てて造成を行い開拓されました。近江屋庄兵衛のその氏をとり「武蔵野国南葛飾郡千田新田」と名付けられました。千田新田は、明治44年(1911年)になると「深川千田町」に改称されました。当時の深川千田町は、現在の扇橋2丁目、千石1丁目、海辺の一部を含む地域でした。その後、深川千田町と深川石島町の南部が合併され、千田町と石島町の頭の1文字ずつをとって千石町と命名されて現在の千石1丁目3丁目が出来たことを経て、昭和43年(1968年)に「千田」の町名となり、現在に至ります。

千田新田は鰻養殖発祥の地でもありました。明治12年(1879年)に、深川で鯉や鰻などを売る川魚商・鮎五の長男だった服部倉治郎により、約六千坪の養殖池が千田新田に作られ、日本で初めての鰻の養殖が始まりました。養殖場はその後、静岡県の浜名湖へと移りましたが、鰻の名産地となつていのは皆「まごころ」の存じのとおりです。町内にある「宇迦八幡宮」は、小さな祠だったものを近江屋庄兵衛が神殿を作り、「千田神社」と称して土地の産土神(うぶすながみ)として崇拝されたことが始まりとされています。当初の神殿は戦災により焼失しましたが、昭和27年(1952年)に町の有志により再建され、社名を宇迦八幡宮と改称されました。境内には江東区の有形文化財に登録されている「石造六角宝塔」があります。また、庄兵衛祭が毎年七月十二日に行われています。

千田には交番、郵便局、銀行、お寺、商店街などもあります。簡単に記しましたが、詳しく知りたい方は、どうぞお調べください。有難うございました。

千田町会 会長 浅野 静雄



石造六角宝塔(宇迦八幡宮境内)

こまつばし 64号 2026.3.10

第17回 東京ナイトウォーク ~江戸の名所を巡る~

11月23日(日・祝)の夜9時に小松橋区民館を出発した9チーム55名の中学生たちが、都内(約26km)を約10時間かけて翌24日(月・振休)の朝7時までに全員がゴールしました。

「夜の東京を歩きながら、生徒たちの絆と成長を感じた一夜」

今年で17回を迎えた東京ナイトウォークが開催されました。今回は、大河ドラマ「べらぼう」の舞台にちなんで、浅草・雷門や歌舞伎座など、江戸の風情を感じながら歩く約26キロのコースとなりました。最初からテンション高くみなでお喋りしながら進み、休憩ポイントではクイズやフリスビーなどのゲームで盛り上がり、他校の生徒とも笑顔で交流していました。「他のチームを抜こう!」と急にペースを上げるチームもあり、その勢いを抑えるのが大変でした。終盤はかなり疲労が見えていたものの、ゴールでの歩き切った達成感に満ちた表情が印象的でした。ご協力くださった皆様に感謝を申し上げます。夜の東京を歩きながら、生徒たちの絆と成長を感じた一夜となりました。【育成部委員 葛西 広達】



令和7年度 小松橋地区 薬物乱用防止標語 受賞者・受賞作品一覧

最優秀賞	深川七中 2年 鎌田 志依 さん	薬物で 命のバトンを たち切るな 輝く未来が 君を待ってる
優 秀 賞	深川四中 1年 大川 唯莉 さん	「やりません」 言葉一つで 未来を変える
	深川四中 1年 杉山 伶菜 さん	薬物は 一回だけでは終わらない 狂わす人生 自分の判断
	深川四中 2年 葛西 直矢 さん	その決断 勇気を出して 未来を守る NOドラッグ
	深川七中 3年 上村 日葵 さん	「一度だけ」 ここから始まる負のループ 薬物は しない させない 誘いにのらない
佳 作	深川四中 1年 高谷 勇斗 さん	薬物は 一度使ってしまったら もう終わり 「やりません」の一言 大切に
	深川四中 1年 辻井 優芽 さん	薬物は 一度やったら 戻れない 少しでも そんな言葉に 負けしないで
	深川四中 2年 増田 瑛汰 さん	薬物乱用 何があっても 手を出さない 一度の判断命取り
	深川四中 2年 倉橋 悠花 さん	1回が あなたの人生左右する 絶対しないと切り切る勇気
	深川四中 2年 神田 莉央 さん	薬物は 一度やったら全て狂わす 「やらない!」と 強い決心
	深川四中 3年 塩田 大智 さん	薬物で 人生終了 悲しいよ
	深川七中 1年 片野 千寛 さん	薬物はやりません 絶対断る その勇気
深川七中 2年 横尾 了悟 さん	薬物は かわいいふりした 悪魔だよ	
深川七中 3年 青木 沙之 さん	一度だけ やめようと思っても やめられない たった一度が 命取り	



第22回 こまつばし作品展覧会

今年も、地区内の小学校(川南・扇橋・毛利・東川)および墨東特別支援学校の児童による作品等が、小松橋区民館5階タウンホールに一堂に会しました。全239点におよぶ力作が展示され、9月6日(土)・7日(日)の2日間で約1,050人の方にご来場いただきました。ご協力いただきました学校関係者・PTAの皆さまに厚く御礼申し上げます。会場には、精密に作られた模型、色彩豊かな芸術作品、大人も驚く調査・研究レポートなど、今年も多種多様な作品が並びました。また、新しい取り組みとして行われた来場者による作品投票等により、グランプリ1点、優秀賞6点、特別賞8点の合計15点が入賞となりました。受賞された皆さん、おめでとうございます。



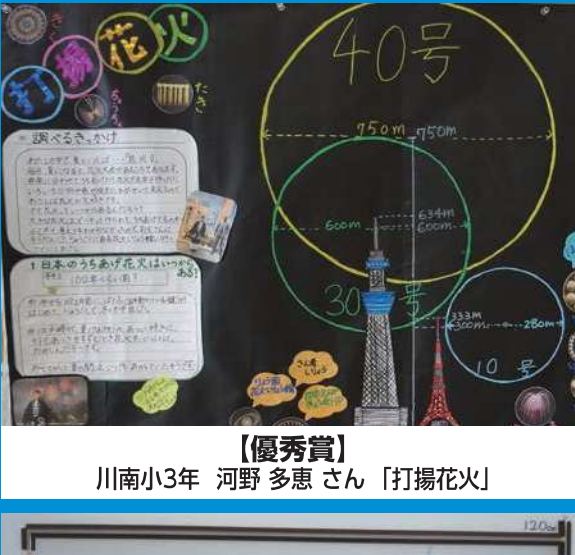
【グランプリ】
扇橋小4年 瀧本花さん
「8月の星空」



【優秀賞】
扇橋小2年 宮下拓実さん
「創造漢字」



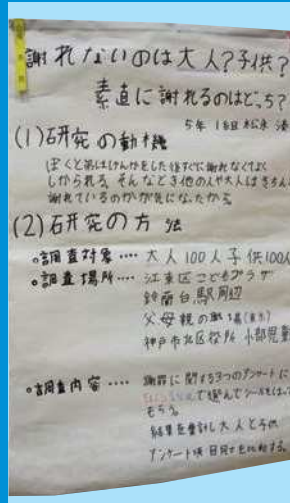
【優秀賞】
毛利小6年 今関敦大さん
「武田信玄の甲冑(オーダーメイド)」



【優秀賞】
川南小3年 河野多恵さん
「打揚花火」



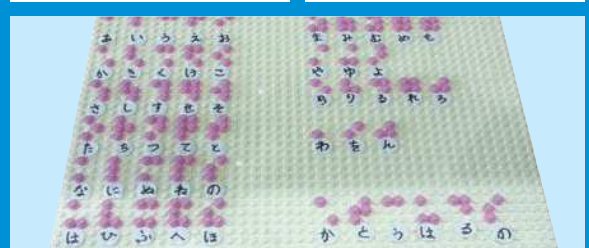
【優秀賞】
毛利小2年 田部井翼さん
「だんごむしは、どっちにまがる?」



【優秀賞】
東川小5年 松永湊さん
「謝れないのは大人?子供?素直に謝れるのはどっち?」



【優秀賞】
墨東特別支援学校5年 渡邊英瑠さん
「はさみアート」



【特別賞】
川南小3年 加藤晴乃さん
「点字を読んでみたい」



【特別賞】
川南小6年 柘植孝志朗さん
「言葉実験〜言葉をはくが証明します!〜」



【特別賞】
扇橋小6年 宮野花乃さん
「こけしについて」



【特別賞】
毛利小1年 千葉すみれさん
「うみのせかい」



【特別賞】
川南小5年 木皮彩稀さん
「牛の出産について」



【特別賞】
東川小5年 中原麗菜さん
「オーストラリアの固有種を守る!」



【特別賞】
東川小5年 曾根理佐子さん
「スタンドグラスの研究と制作」



【特別賞】
扇橋小4年 松永權さん
「扇橋小学校 1/200模型」

青少年非行化防止講演会

『東京大空襲の記憶と継承—戦後80年をむかえて—』

小園 崇明 氏 (東京大空襲・戦災資料センター学芸員)

令和7年7月11日(金)、小松橋区民館5階タウンホールにて青少年非行化防止講演会が開催されました。講師には東京大空襲・戦災資料センター学芸員の小園崇明氏を迎え、講演では東京大空襲や関東大震災に関する被災証言や当時の資料をもとに、戦災の記憶を次世代に伝えることの意義や平和の大切さなどが語られました。また、当時8歳の時に亀戸で東京大空襲を体験した二瓶治代氏の証言がビデオメッセージで紹介され、空襲下の体験や家族との避難の記憶が語られました。

私も戦争を知らない世代です。40年間暮した森下の地で、その当時の町会長に東京大空襲の際の体験談を読ませていただいたことがあります。今回紹介された二瓶治代さんと同じで、空襲となり、家族みんなで防空壕に逃げ込み、町会長は少し遅れて、防空壕に入らず、怖さのあまり震えて近くに伏していたそうです。次の瞬間、防空壕に爆弾が落ち、中に入っていた人達は防空壕もとも火の海となり、全員亡くなってしまった。両親、兄弟をいっぺんに失い、一人で三つ目通り沿いをさまよい歩いたそうです。悲惨の二字です。

以前に読んだ本に書いてあった、「戦争ほど残酷なものはない。戦争ほど悲惨なものはない」という言葉が私の耳に響きます。今回講演いただいた、小園先生は、戦後80年となり、戦争を体験した人達が、減少していることに危惧を抱いています。そしてこのように講演を行ない、平和のためにどうしたら良いかを私達に問いかけています。今ウクライナでも、戦争が起きて丸4年になります。そしてウクライナの小学生や大学生の心の中にも、戦争が長引けば長引くほど、相手の国に対して恨みが募るのだと感じました。そして、自分に何が出来るのかとなりますが、簡単に答えの出る問題ではありません。

自分自身の幸福を考えたとき、周りの人達が幸福でなければ得られないように思います。

地区対の活動でもそうですが、誰かのために行動できる自分が大事なのではないかと思えます。本当にどこかの国と危うい関係になったとき、私達一人一人が強い気持ちで、戦争を起こさせない。そしてどんな時代になっても、諦めないでこの活動を続けていく勇気が必要なのではないかと思えます。私もまだまだ未熟です。皆さんと一緒に考えていきたいです。

【小松橋地区対副委員長 林 孝司】



戦争の記憶を次世代へ伝える意義を語る小園崇明氏

地域交流会「古写真さんぽ」地元のいま・むかしをたずねて

長い夏がようやく収まり秋の気配を感じられる10月4日(土)に地域交流会・第4回「古写真さんぽ」が開催されました。当日は曇りのち雨の曇天の中でしたが、お陰様で前半は傘をささずに歩く事ができました。小中学生の保護者の方々を中心とした参加者42名が5グループに分かれ、東川小学校からスタートし、猿江地区の古写真を元に、現在の撮影場所を巡りました。現在の場所から当時の面影を見出し、発見や

気付きを楽しみます。毎日何気なく通り過ぎていた場所が当時は材木業が盛んな地域であったり、B29による戦禍を受けた寺院であったりと、子供たちに伝えたい新しい発見があったと大変感慨深い意見もありました。来年も開催の予定です。あなたの街のタイムリープを体験して下さいれば大変嬉しいです。

【環境部委員 高橋 恵子】



むかし(昭和32年頃) 江東区教育委員会所蔵

いま(令和7年)



グループ発表の様子